

学生プロジェクトによる携帯端末を用いた 学習・就職支援システム

中桐斉之* 川崎弘人* 中井穂高* 谷川千奏* 内平隆之* 米山寛二*

兵庫県立大学環境人間学部*

1 はじめに

平成23年3月、兵庫県立大学環境人間学部エコ・ヒューマン地域連携センターが設置されたのに伴い、センターの学生プロジェクトが運営する携帯端末ベースの学生 SNS、echo 姫を立ち上げた。学生プロジェクトは兵庫県の「青少年主体の地域連携活動支援プログラム」に登録されている。同年10月、就職活動支援のユーザ登録を契機に登録数が拡大し、現在170名に達した。また、平成24年4月に入学する新入生の支援や他学部（工学部）へのサービスも開始した。本学生 SNS は大学の学生サービスを学生側から補完するものである。

2 研究の背景と目的

現在の学生 SNS は2種類に分類される。第1は、大学が学生サービスの一環として、一方的な情報提供を行うものであり、これを便宜上、大学型と呼ぶ。学内のセキュリティ・ポリシーに保護されており、携帯電話やスマートフォンなどモバイル端末への対応は少なく、学内の PC からアクセスする。第2は、ミクシーをはじめリンノなど学外で提供された SNS サイトを活用して学生達だけが情報交換するものであり、これを大衆型と呼ぶ。大学型チャンネルからは、大学の行事や提出書類などの情報が流され、学習における単位取得や就職活動での内定獲得ノウハウなど学生にとって有益な情報は少ない。一方、大衆型チャンネルは学生にとって有益な情報を得やすいチャンネルであるが、所属する大学の学習や就職支援に関係する情報は少ない。そこで、我々は、大学型の情報を大衆型に流すことができるハイブリッド型 SNS を提案する。平成23年4月に施行された大学設置基準の改正に伴う授業科目などの情報公開義務は本学生 SNS の大学と学生の中間的な立ち位置を正当化するものと考えられる。

機能として、大学生

Study / employment supporting system using the mobile phone assisted by a student project
Nariyuki Nakagiri* Hiroto Kawasaki* Hodaka Nakai*
Chikana Tanigawa* Takayuki Uchihira* Kanji Yoneyama*

*School of Human Science and Environment, University of Hyogo

の学習と就職活動を連携して支援することを目指し、運営は学生プロジェクトが担当しながら大学と学生が一緒になって推進する仕組みを模索する。以上から学生達のキャリア形成やベンチャー精神の養成をも期待する。

3 地域ポータルサイトとしての学生 SNS

我々は、本学生 SNS の主目的を、学習・就職支援としながらも、開発元である株式会社グローバル IT ネットが提唱する「DCS (Digital Convenience Service)」のコンセプトに基づき、地域ポータルサイトとして位置づける。DCS とは「関西圏の鉄道の快速電車や急行電車が停車する駅にコンビニエンス・ストアのデジタル版を開設する」というコンセプトで、その駅を中心とした地域連携を意識している。これまで、大学生協、地元就職サイト「はりまっち」、姫路市の「B-1 グランプリ」、兵庫県の「若者消費者力アップ事業」と連携した。また、「ひめしん研究開発支援助成金」から研究助成を得た。一方、株式会社グローバル IT ネットが毎月1回開催する地域ポータルサイトのオーナー会議に出席し、地域貢献の在り方を研究すると共に、登録時のインセンティブ付与など他ポータルサイトのモジュールを転用した。

4 echo 姫の現状

本学生 SNS の初期画面を図1に示す。現在は携帯電話をベースとして、機種によるメモリー制約やユーザの利便性を優先しているため地味なインターフェースであるが、近日、スマートフォンをベースとした画面に全面的に変更する。

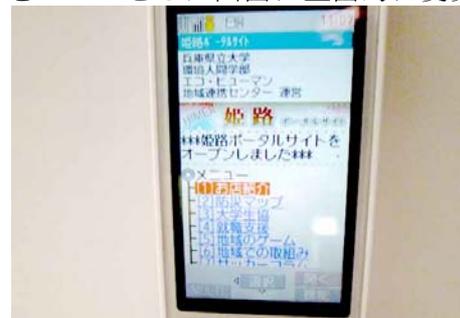


図1 echo 姫の初期画面

echo 姫の初期メニューを表1にまとめた。この中で、「お店の紹介」と「防災マップ」は目下準備中である。就職支援はキャリア支援メニュー内にあり、一斉メール配信機能、就職情報コラム、掲示板と充実してきたが、学習支援については、大学の掲示板の情報を初期メニューの掲示板に転記するに留まっている。

表1 echo 姫の初期メニュー

[1]お店の紹介
[2]防災マップ
[3]大学生協
[4]新入生支援
[5]キャリア支援
[6]消費者力支援
[7]クラブ・サークル紹介
[8]地域のゲーム
[9]地域での取組み
[10]サッカーコラム
[11]掲示板
[12]登録者一覧
[13]PC、スマートフォン利用登録
[14]ご意見箱

立ち上げから平成24年1月11日までの登録者数の推移を図2に示す。これまで5種類のユーザを設定したが、2013年就職活動に関係する3年生・修士1年生の登録が突出している。

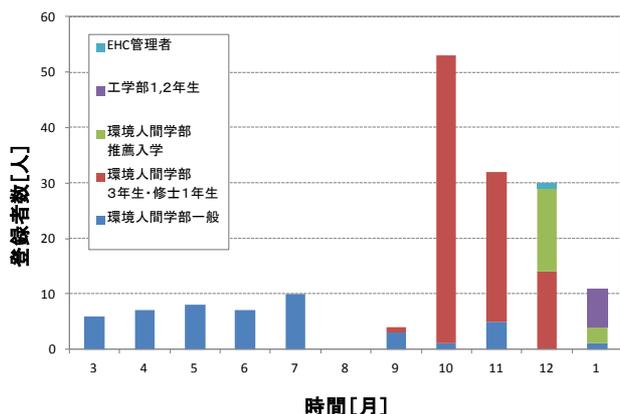


図2 echo 姫への登録者数の推移

5 課題と解決策

(1) 学生プロジェクトの維持

学生だけで学生プロジェクトを維持するのは難しい。本 echo 姫プロジェクトでは、毎週木曜日昼休み、エコ・ヒューマン地域

連携センターで、教員が入って定例会議を開催してきた。また、インセンティブとして、「青少年主体の地域連携活動支援プログラム」から就職活動で有利な活動認定書が交付されることになっている。

(2) 大学の協力

情報公開に対する各大学の取組みや学生のキャリア形成支援への教員の関わりは少ない。これに対して、本プロジェクトでは、エコ・ヒューマン地域連携センターの兼任教員がキャリアセンター長でもあるため、大学型チャネルの就職支援を本学生 SNS で補完し、キャリア形成やベンチャー精神養成の一環として学生プロジェクトを指導してきた。

(3) 登録ユーザ数の拡大

大衆型 SNS のように自然拡大は望めない。これに対して、本プロジェクトでは、就職活動開始時期や入学手続きなどのエポックをとらえると共に、登録時にインセンティブを与えて登録数を拡大した。

6 今後の展開

(1) 大学版 SNS の洗練

平成24年1月、環境人間学部から他学部（工学部）への展開を果たした。今後は、神戸地区にある経済学部や経営学部へも展開し、兵庫県立大学の望むべき学生 SNS として洗練していく。

(2) 他大学への展開

甲南大学の「甲南ナビ」グループと連携し、広域学生 SNS「関西サテライトビジョン」を構想している。関西一円の大学を包括する学生 SNS を提案していく。

(3) 地域ポータルへの連携

姫路地域に祭り、商店街、スポーツなど種々の地域ポータルを数多く立ち上げ、それらを多層的に積み上げたポータルサイトに本学生 SNS も集約していく。

7 まとめ

多くの学生が生き生きとした学生生活を送るためのツールとなるのが、本学生 SNS の最大の目的である。そのためにはユーザ登録数の拡大は必須であるが、アプリケーションやコンテンツの充実も必要である。両者を「卵」と「にわとり」に例えれば、どちらが先でも次が保証されているわけではない。本学生 SNS は、「にわとりが先か卵が先か」の生みの苦しみを繰り返しながら、いつかはブレイクすることを信じ、今はひたすら規模の拡大を図っている。